

鶺鴒

は、たが門さしてとあはれにおぼゆ、

〔徒然草上〕五月あやめふく比、早苗とる比、くゝるなのた、くなど、心ほそからぬかは、

〔東都歳事記五月〕秧ヒキナ鶺鴒ヒキナ十日頃カ 四 橋場 佃島 寺島 根岸 標茅シシが原邊シシよし、五月中頃カ九

月始頃迄也、

〔書言字考節用集五氣形五鶺鴒ヒキナ〕

〔倭訓栞中編二十〕略ばん略 鳥の名によべるは鶺鴒字を用うれども、兼名苑に鶺鴒の一名とせり、鳩

の轉語なるべし、即護田鳥なり、又俗に守護する事を番といへば、その意にてよべるにや、本草にも見人輒鳴喚不去とみえたり、小番とよぶ鳥あり、鳩に少し大なり、

〔本朝食鑑五水禽五鶺鴒ヒキナ附河カ鳥カ〕

集解、鶺鴒水禽也、似小鳥稍小、黑色大嘴、嘴根紅、嘴末黃、短尾長脛、而青、常棲田澤水畔、而鳴、庭池養之、能馴于人、孕而伏卵、其雛可愛、其味亦美、夏初、鴨類去盡、以鶺鴒爲上饌、捕其田澤川湖者、供之一種、似鶺鴒而大、嘴青、黑腹、灰白、足青、白而短、呼號川鶺鴒、或稱大鶺鴒、其味比鶺鴒則不爲佳、亦常居田澤川湖者也、一種有鶺鴒之大者、狀與鶺鴒同、額下鼻上有白肉瘤、其掌如木葉、又似鶺鴒之掌、其味亦佳、

肉、氣味、甘平、無毒、主治、未詳、

〔本朝食鑑六華和異同〕鶺鴒

中華未、知有斯鳥也、或曰鶺鴒也、鶺鴒者、長脚紅冠、是稍相似、然大如鶺鴒、雄大褐色、雌小有斑、則非鶺鴒也、

〔重修本草綱目啓蒙三十二水禽〕鶺鴒 詳ナラズ 一名交精典籍 便覽 鶺鴒 同上

バンニ充ル説ハ穩ナラズ、バンニ大小二種アリ、小ヲコバント云、一名梅首雛、仙臺形鳩鶺鴒ノ如ク

色黒クシテ光リアリ、背上ヨリ目上ニ至マデ、紅色アリテ冠ノ如ク見ユ、初ハ青クシテ後コノ色

ニ變ズ、脚蹠ナクシテ、指最長シ、夏月食用ス、小バンヲ勝レリトス、清俗田雞ト云、臺灣府志ニコノ